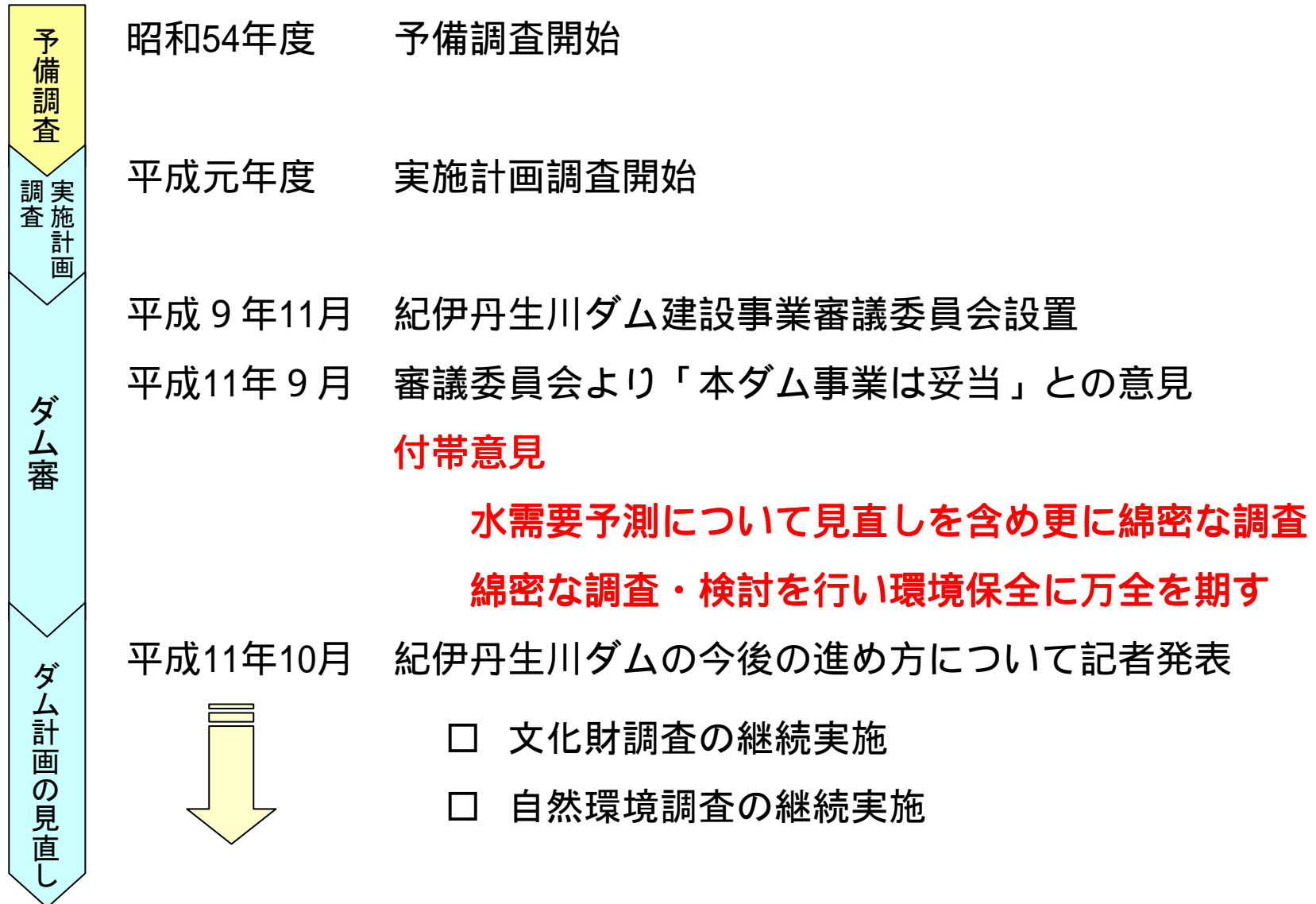


# 紀伊丹生川ダム建設計画について

<報告>

# 紀伊丹生川ダム建設事業に関する経緯(1)



## 紀伊丹生川ダム建設事業に関する経緯(2)

ダム計画の見直し

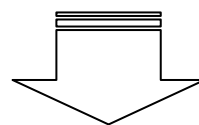
- 平成12年度 現ダム位置400m上流において地質調査を実施  
ダムサイトとして適さないことが判明
- 平成13年 3月 ダム流域において洞窟を確認
- 平成13年 5月 **利水者の水需要計画を確認**  
**和歌山県：和歌山市上水の撤退**  
**大阪府：紀の川水系からの給水量変更**  
**(日量25万m<sup>3</sup> 日量13万m<sup>3</sup>)**
- 平成13年 6月 **ダム計画の見直しを行うことを公表**
- 平成13年10月 現ダム位置800m上流において地質調査を実施
- 平成13年 1月 地質調査(現地調査)の完了  
見直しダム諸元・事業費の算出・費用対効果検討
- 平成14年 5月 **「事業継続が困難」と対応方針を公表**

# 紀伊丹生川ダム建設事業審議委員会意見

(課題とその対応)

## 利水

(ダム審意見) 水需要予測について見直しを含めて更に  
綿密な調査・検討を行うべき



平成13年5月 利水者に水需要計画について確認

## 結果

和歌山市:  $0.2 \text{ m}^3/\text{s}$  → 撤退

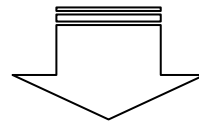
大阪府営水道:  $2.8 \text{ m}^3/\text{s}$  →  $1.31 \text{ m}^3/\text{s}$

# 紀伊丹生川ダム建設事業審議委員会意見

(課題とその対応)

## 文化財・自然環境

(ダム審意見) **引き続き更に綿密な調査・検討を行い、環境保全に万全を期するように望む**



ダム審以前より実施していた文化財調査、生物調査を継続実施。調査結果を受け、

文化財、自然環境への影響を低減するべくダム位置の変更  
地形改変を最小限とするため、付替え道路のトンネル化、  
原石山位置を変更

# 見直し案の考え方

環境面への更なる配慮

案① 現計画サイトは地質が良好であることを確認

(必要容量確保)

ダム堤体により、橋立・弓張石・戸立岩(通称犬戻)が消滅

湛水による洞窟への影響

案② 上流800地点にダムサイトを移し影響を軽減

(必要容量確保)

常時満水時に五光の滝が一部水没、鰻の背登り瀧が水没

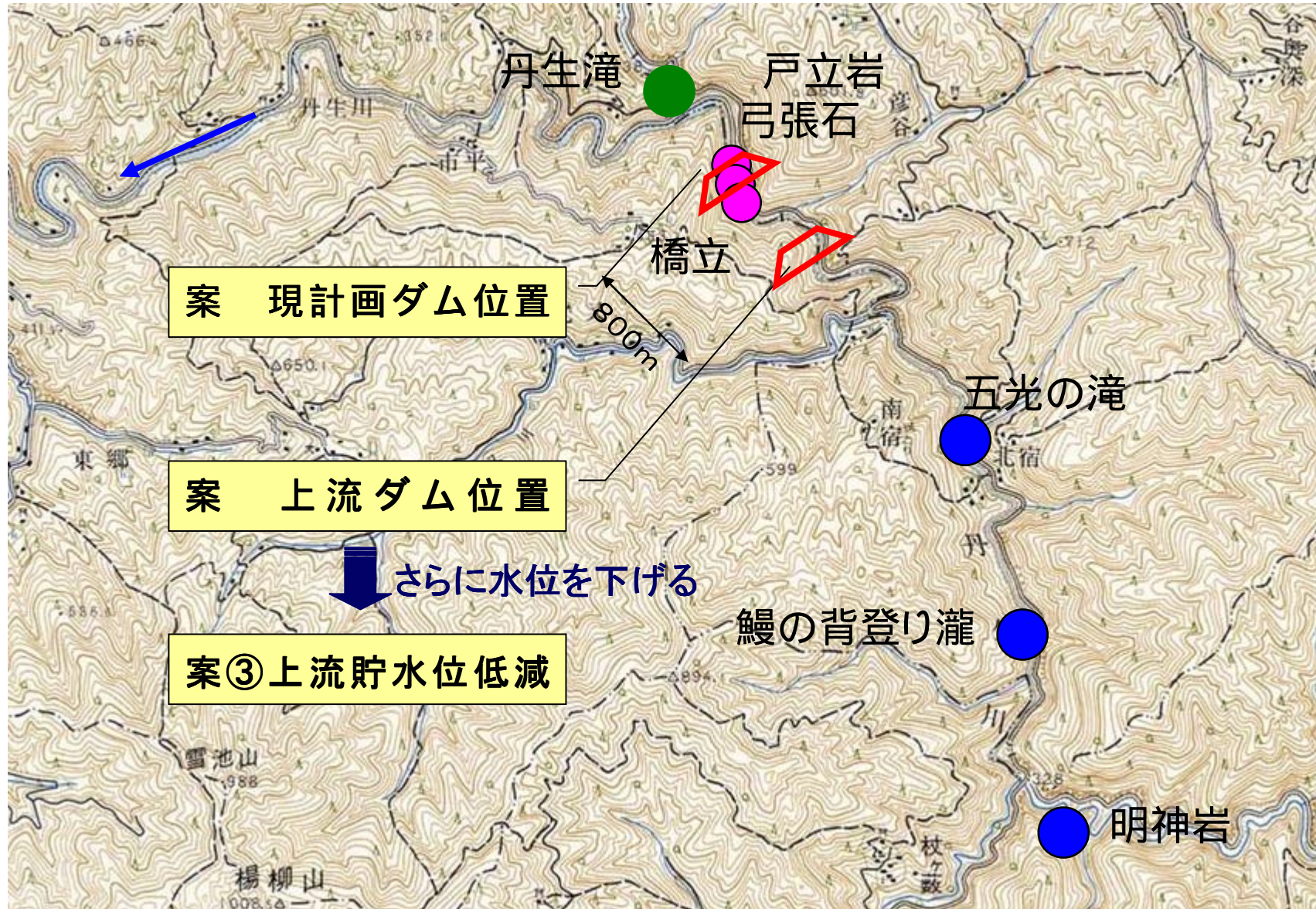
洪水時に明神岩が水没

案③ 貯水位を下げ、文化財への影響を軽減

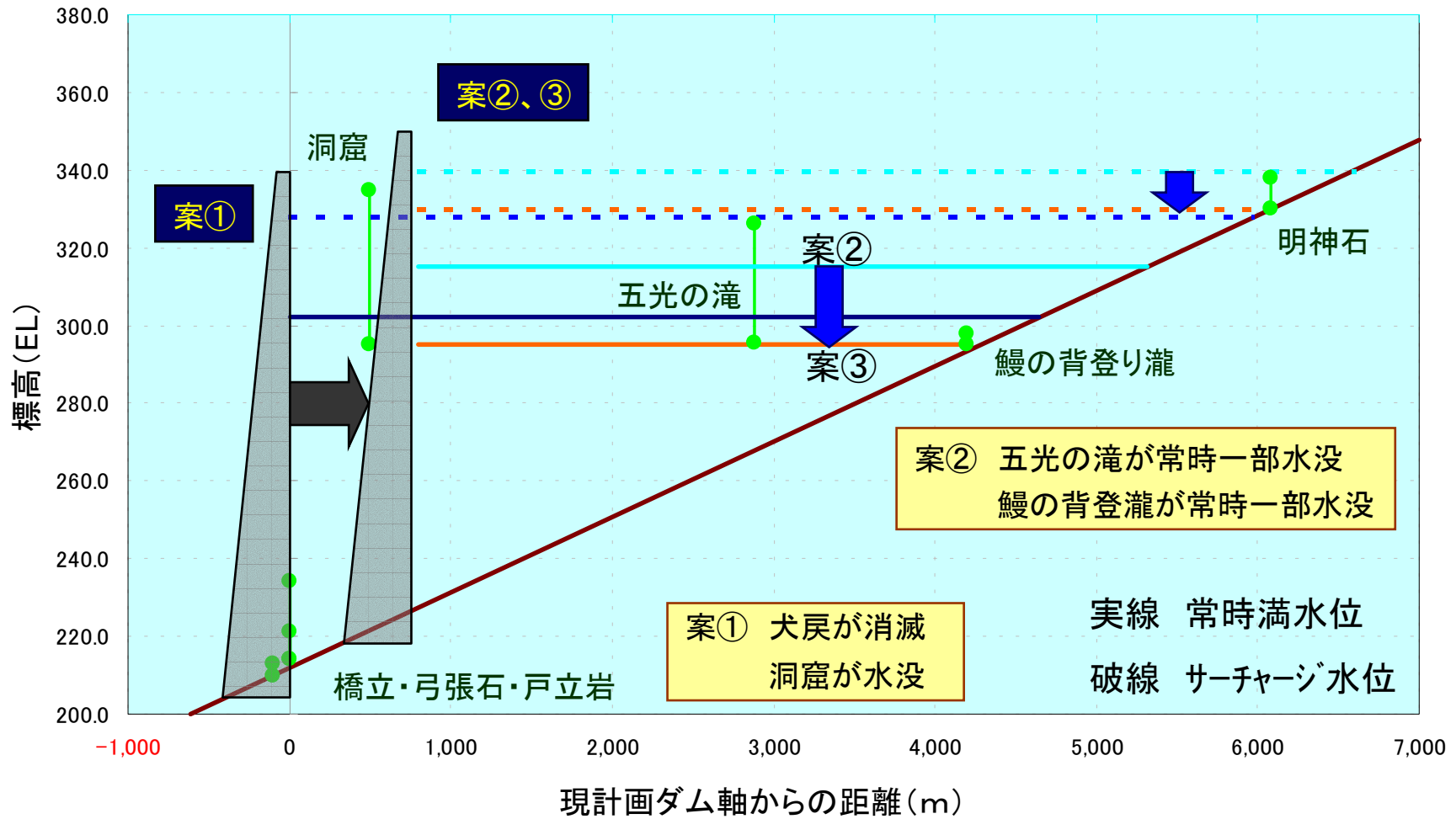
(利水容量減)



# 史跡等位置図(一部)

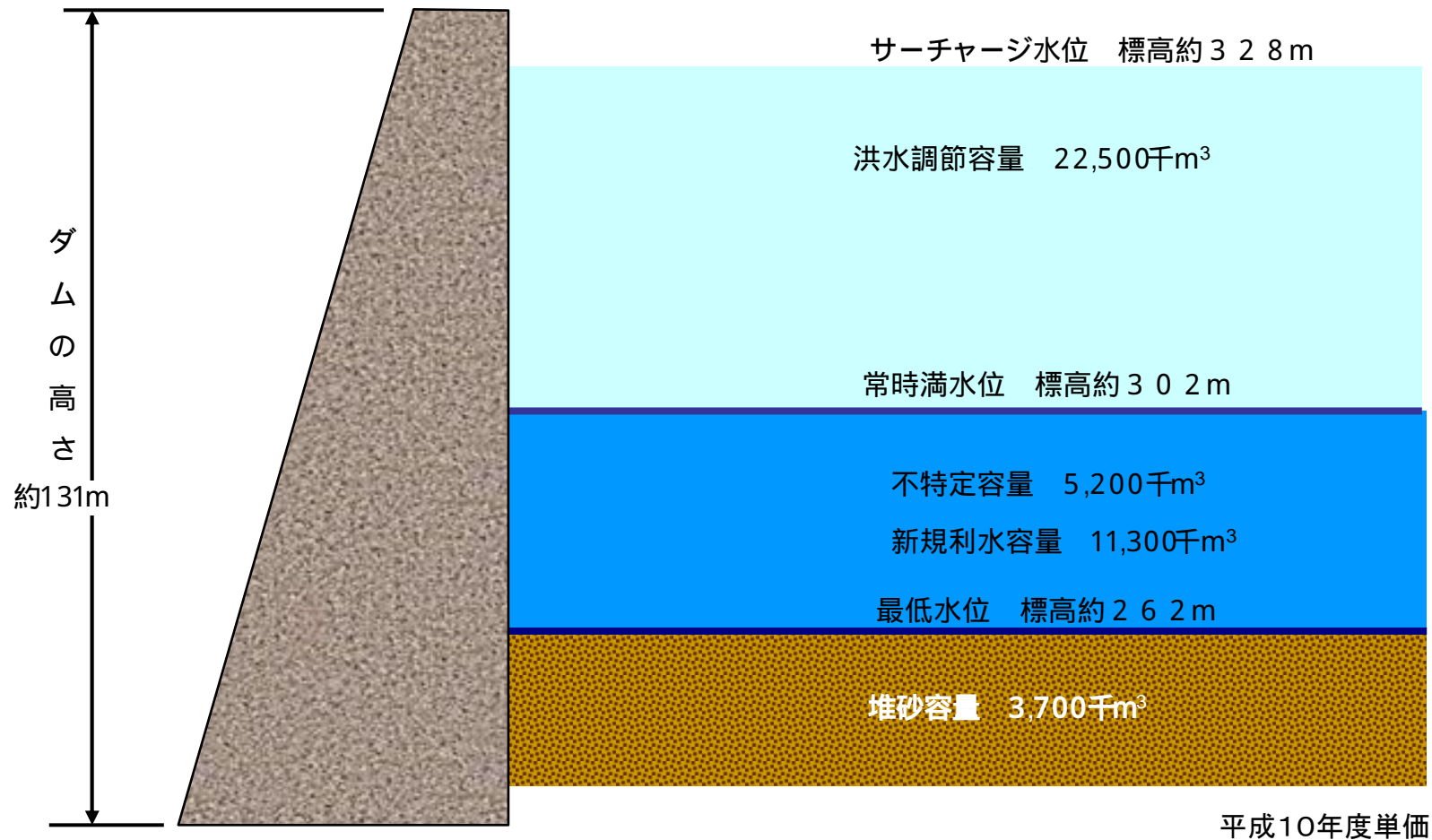


# 見直し案の考え方(水位)



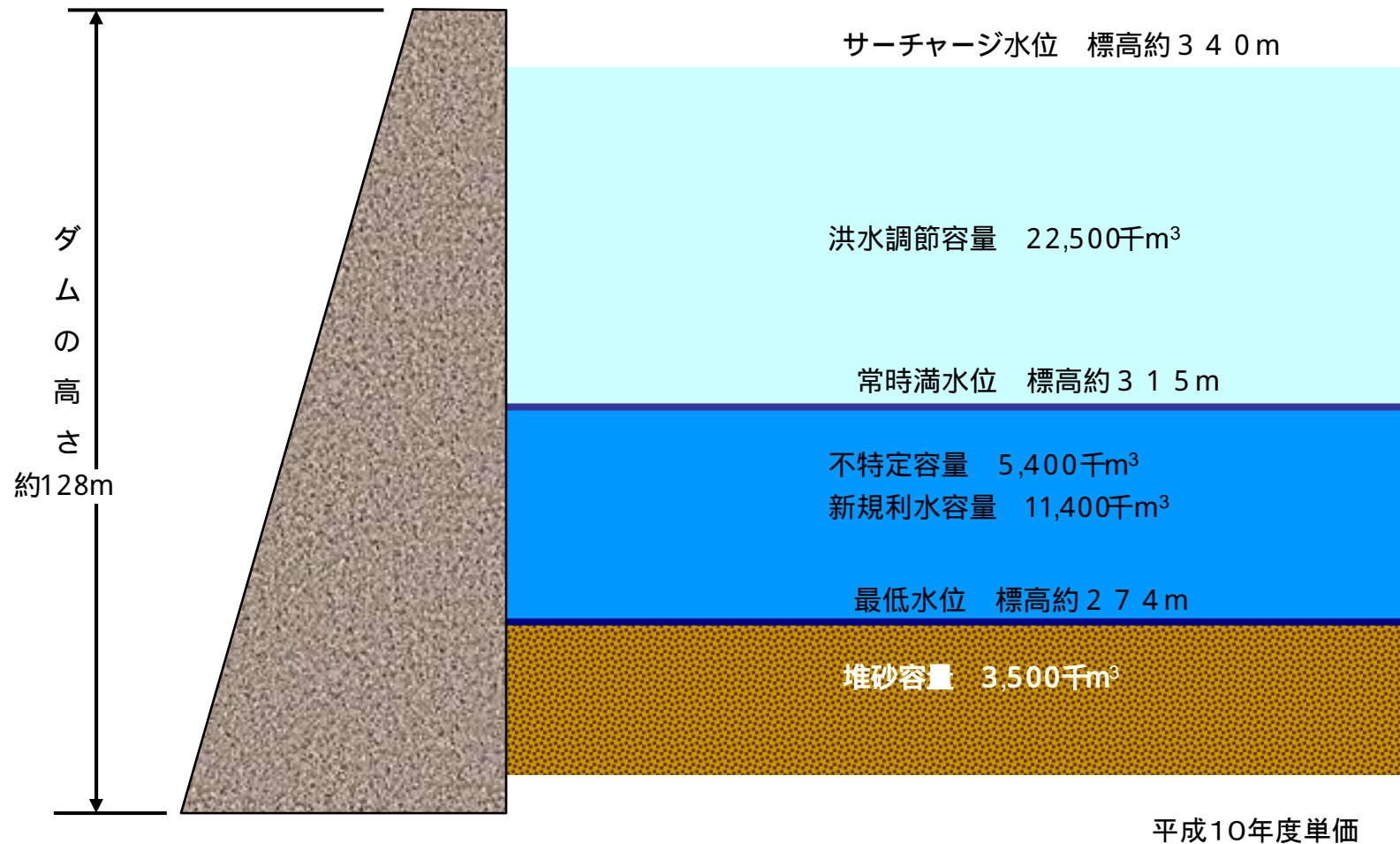


# 見直し結果(見直し案①)



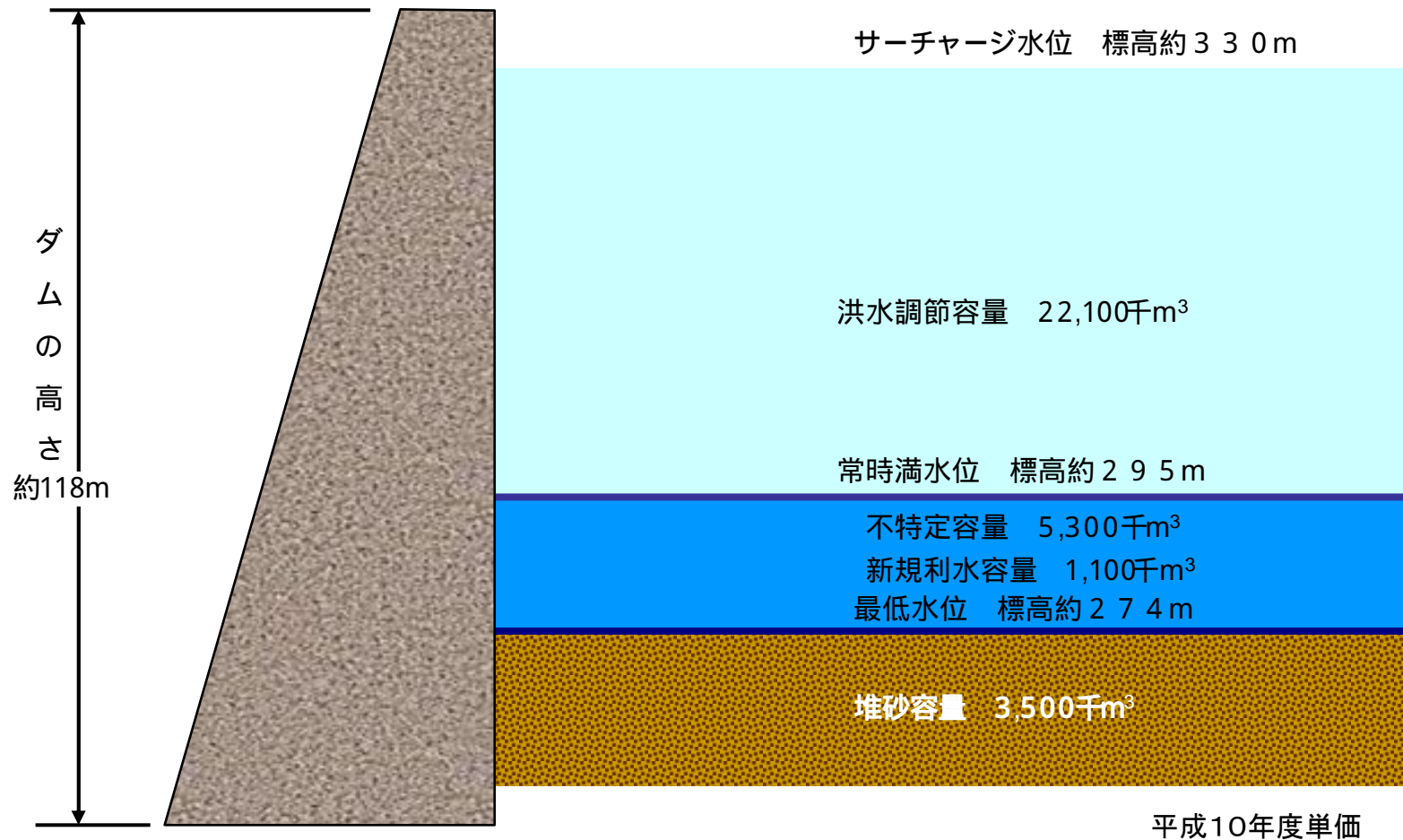
総事業費: 約1,450億円(洪水調節負担約840億円)

## 見直し結果(見直し案②)



総事業費:約1,360億円(洪水調節負担約780億円)

# 見直し結果(見直し案③)



総事業費:約1,190億円(洪水調節負担約920億円)

## 事業費の算出(洪水調節分)

案 の治水事業費 = 840億円

案 の治水事業費 = 780億円

案 の治水事業費 = 920億円

H10年度単価を使用

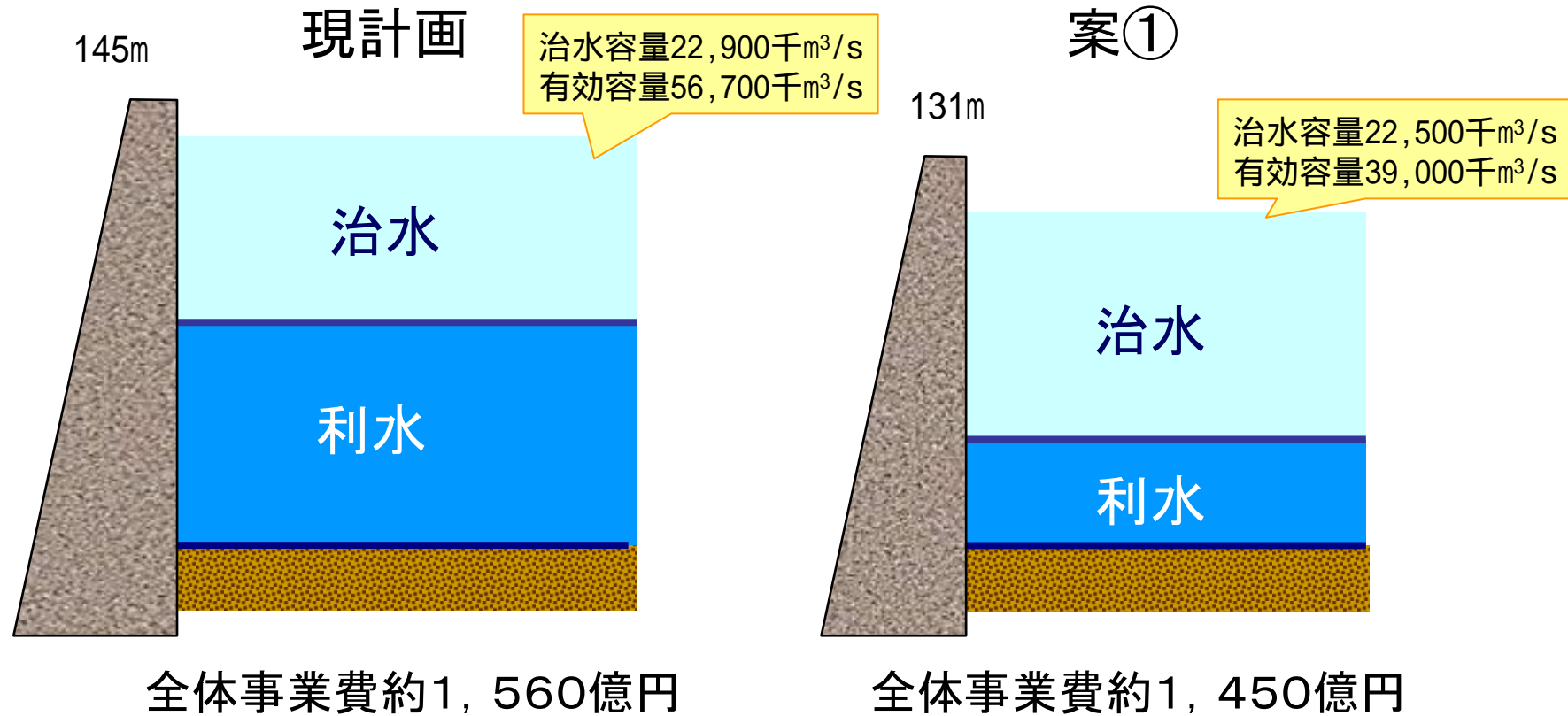
(参考)

現計画の治水事業費 = 630億円

H9年度単価を使用

全体事業費から洪水調節容量比で算出。全体事業費については、類似のダムを例としたおおよその試算値

# スケールメリットの減少



治水の効果は変わらないが、利水の減少により治水の費用負担割合が**1.5倍増加 約40% → 約60%**

結果、治水の**費用負担が増加 約630億円 → 約840億円**

## 検討結果

### ■案①

ダム事業の治水負担が著しく増加。

犬戾等の史跡、景勝地、洞窟への影響が免れない。

### ■案②

ダム事業の治水負担が著しく増加。

犬戾、洞窟への影響は回避できるが、一部史跡が水没する。

### ■案③

ダム事業の治水負担が著しく増加。

必要な水道用水が確保できない。

なお、史跡、景勝地に影響は最も低減できる。



## 今後の対応方針

ダム計画の見直し結果を受け、近畿地方整備局は、**紀伊丹生川ダム建設事業を、河川整備計画のメニューとして提案しないこととしました。**

今後は、近畿地方整備局事業評価監視委員会に、ご意見を伺うこととします。